

令和6年度 郷土を愛する心を育む教育についての取組



佐賀県立佐賀農業高等学校

【学校所在地】白石町大字福田1660番地

【連絡先】 TEL 0952-84-2611

FAX 0952-71-5009

【生徒数】 357名

佐賀農業高等学校の特徴や誇れるもの

- 佐賀県の農業を担う人材育成に向け、明治28年に佐賀市に開校、大正10年の現在地への全面移転を経て130年の歴史を刻む。
- 玄関前の見事な蘇鉄は大正4年(1915年)に佐賀市の高伝寺から寄付されたものであり、100年以上に渡って本校の変遷を見守っている。県庁舎本館前の蘇鉄も、高伝寺にあった一対のうちの一つである。
- 本校出身の香月熊雄氏は、佐賀県知事として3期12年の間、佐賀県発展のために尽力した。
- グローバルな視点と地域や人とのつながりを大切にしながら、「食・農・環境」に関する専門教育を行い、地域を支える産業人材を育成している。



地域の「自然、歴史を感じる・守る」取組

- 毎年4月、開校記念行事として、日本三大歌垣の一つに数えられる歌垣山へゴミ拾いを兼ねてハイキングを行い、春の自然が織りなす美しい風景を感じ、それを守る機会としている。また、12月には全校で地域の清掃活動やふれあい動物交流等を行い、環境保全や地域貢献の活動、地域の方々との交流により、自然・文化・歴史を感じる取組としている。
- 学校周辺のクリークに、絶滅危惧種のカワバタモロコシの存在を確認し、保護して人工的に飼育した後、繁殖させてクリークに返す自然保護活動を行っている。



校内最大のイベント【佐農祭】

- 毎年11月中旬に開催する秋の収穫祭。1000名を超える地域の方々が、農産物や加工品を買い求めに来校される。人気はシクラメンなどの花、肉の加工品(ハム・ベーコン)、メロンであり、質の良いものを多くの方に提供できるよう、熱い思いを込めて実習に取り組んでいる。また、地域のタマネギ農家に向けて苗を販売したりと、地域農業振興の一端を担っている。



農業学習の教材・技能を活かした地域との関わりについて

- 農業科学科では、地域の特産物や校内で生産している農産物の試験研究において、生産・加工過程を工夫することで、量・質ともにより良いものを生産し、独自のブランド化を進め販売まで行っている。また、地域の保育園や幼稚園、小学校などとの農業体験や校内で飼育している動物を通してのふれあい交流も行っている。



- 環境工学科では、地域に広がるクリークの機能や水質の調査研究に加え、白石平野に堆積する有明粘土の特性と、それがもたらす地盤沈下等のメカニズムについても調査研究に取り組んでいる。また、環境保全の取組として、森川海人プロジェクトに参加し、クリークに生息する絶滅危惧種保護の活動も手掛けている。



- 食品科学科では、地元農産物を材料にした加工品を生産している。代表的なものとして、焼き菓子は全て県内産小麦にすただけでなく、県産大豆の味噌やいちごジャムなどがある。また、有名洋菓子店からパティシエを招き、プロの菓子づくりを基礎から学んでいる。その技能を活かし、平成25年度より、高校生ケーキカフェ「サノ・ポヌール」や「マルシェ」を道の駅しろいし等で展開している。製造から販売・接客までを生徒主体で行っており、地域のイベントとして愛されている。

